

さんむのふるさと散歩 郷土の指定文化財(れきし探訪へん)

No.1

山武市の指定文化財は、

旧4町村で指定されたものをそのまま引き継ぎます。内訳は、国指定2・県指定10・市指定84の合計で96です。

文化財の種類は、有形文化財をはじめ、無形文化財、天然記念物・指定史跡などがあります。

このように数多くの指定された文化財を市民の方々に紹介させていただき、郷土の文化財を散歩してはいかがでしょうか？

今回は市として一回目の紹介になりますので、国指定と千葉県指定の中で、特に全国的に知られています成東地区の成東・東金食虫植物群落、松尾地区の大堤権現塚古墳・山武地区の島戸境1号墳出土遺物の三か所について紹介しましょう。

成東・東金食虫植物群落

1917年(大正9年)に国の天然記念物として、日本では最初に指定されました。

面積は当初38,000㎡程ありましたが、戦争中の食料生産の拡大による耕作地の変更によって、現在は約17,000㎡になっています。



食虫植物(イシモチソウ)

生息している植物の種類は、多種に亘ることが大きな特徴で、種子植物・シダ植物・コケ植物の計460種にのびります。

食虫植物は現在8種類が生息し、葉に粘毛を持ったモウセンゴケ・イシモチソウ・コモウセンゴケなど虫を捕らえるものやナガバノイシモチソウなどの湿原植物が生息しています。



大堤権現塚古墳

大堤権現塚古墳

松尾地区に所在する大堤権現塚古墳は、松尾高校の校庭隣に大きな山の姿をした前方後円墳です。古墳の大きさは、115mの長さを持ち、平成3・4年に2時期の確認調査が実施され、三重の周溝(古墳の周りを巡る溝)が発見されました。この周溝が三重に巡ることは、千葉県内では初例となり、全国でも6事例しかありません。

この古墳は大堤古墳群(9基)の中で最も大きく、この周辺の長(おさ)の墓とされています。

島戸境1号墳

山武地区に所在する島戸境1号墳は、成東地区の真行寺と境を接する位置に所在しています。現在は畑地で古墳は視覚的には確認できませんが、地中に眠っています。

この古墳は円墳で、平成7年に調査が実施され、4面の鏡と多数の玉類(管玉・勾玉・ガラス玉など)が発見されました。

古墳の年代は4世紀後半位に想定され、山武地域において銅鏡が発見されたことは、それまでの定説でありました鏡を持つ古墳は、ないとされていた山武地域の古墳の様相を覆す結果となりました。



鏡(内行花文鏡)

▶勾玉



島戸境1号墳

【問合せ】

教育委員会本庁生涯学習課